

# 総務企画防災常任委員会行政視察報告書

西 田 智 男

## ○愛知県岡崎市

### ・平成 20 年 8 月末豪雨災害後の防災対策の取り組みについて

#### 【所 見】

平成 20 年 8 月 28 日から 31 日にかけて岡崎市を襲った豪雨では、大変な被害が発生した。岡崎市の人口は、足利市の倍以上の約 38 万 7,000 人である。降り続く豪雨により、全世帯（約 14 万世帯）に緊急避難勧告を出した。その方法は各地区の代表者 50 人への電話連絡であった。時刻が深夜であったため、全世帯への伝達がスムーズにできなかったとのことであった。時が過ぎ、市内の 3,365 世帯に床上床下浸水が広がった。

その後、岡崎市では市民参加のもと、岡崎市水害対応ガイドブックという冊子を作成している。危機管理に対する市民一人一人の心構えの必要性を強く感じた。

行政では危機管理に関して十分に検討し、細部にわたって整備と管理をしているが、より一層市民の危機管理意識を向上させるために何をすべきか、日ごろから有事に備えた自己管理をする必要性を痛感させられた。

### ・斎場整備事業について

#### 【所 見】

斎場の建設には、その土地柄による風習が関係する。岡崎市では火葬中、水を供えるような風習はないとのことであり、同じ仏教で、これほどの違いがあることを初めて知った。岡崎市斎場は P F I 方式による運営である。最新の設備であり、近年視察した斎場では見たことないほどに立派な施設であると感じた。

運営は民間企業が行っていて、一人も市の職員を置かず、運営しているとのことであった。足利市の斎場の建てかえに当たって P F I 方式を採用する場合は、事前に十分な精査を行う必要性を感じた。

視察を振り返り、民設民営（P F I）方式の導入については、次の事項をクリアするべきであると強く感じた。

1. 市民の心に寄り添う運営が継続してできるか。
2. 他の事情も含め、使用料金の値上がりについて安定が図れるか。
3. 公営のよさがどの程度残せるか。

以上の点について十分な精査が必要であると思った。

## ○神奈川県秦野市

### 災害時等行動マニュアル策定の経緯と対策訓練の実施及び検証について

#### 【所見】

足利市議会でも足利市議会災害時BCP（業務継続計画）により議会の統一した行動指針を策定し、条例化したばかりである。市の災害対策本部に協力することは当然であるが、各議員が地元への対応を強要しないことが大切である。議員として市全体の防災を考えると同時に、地域の一員として住民の安全確保と応急対応に当たることが必要である。

この視察の際にも、説明者から出た「市に対し、地元への対応を強要することがないようにしなければならない」との言葉が印象的であった。同じ意見は岡崎市でも聞かされた。

文章化した行動マニュアルを、行動基準として遵守できるかが問題である。どこの市でも災害発生に備えた万全の体制づくり、初期行動や避難誘導場所の設定などに大変苦慮されている。幸い足利市では、地震による津波のような被害は予測しなくてよいと思うが、想像を超える災害に対してどのように予測を立てるかが課題であると思った。